

大学や研究機関で研究支援するみなさま

大学のための 企業連携提案 マニュアルのご案内

貴学の研究成果を社会に活かしましょう！

大学 × 企業





大学のための企業連携提案マニュアルとは？



大学等の研究支援者の皆様が、研究成果を企業と結びつけ、社会実装を促進するための実践的なガイドです。企業との連携において、従来の「研究シーズを売り込む」アプローチではなく、企業のニーズを深く理解し、共に新たな価値を生み出す視点を重視しています。

こんな方におすすめ！

- URA (University Research Administrator)：研究戦略の策定や産学連携の推進を担う専門職員
- 産学連携コーディネーター：企業との連携構築や研究者の支援を行う担当者
- 知的財産管理担当者：特許活用やライセンス契約の交渉を担当する知財部門の職員
- 技術移転担当者（TLO 関係者）：大学の研究シーズを企業へ移転し、事業化を推進する実務者
- 大学発スタートアップ支援担当者：学内起業の支援や、スタートアップとの連携を促進する担当者

3つの特徴

- 1 特許情報を活用して企業のニーズを分析し、的確な連携先を特定
- 2 企業視点での「価値創造ストーリー」を構築し、刺さる提案を準備
- 3 「連携提案資料」のひな形を付属し、実践的な提案作成をサポート

連携までの流れ

以下の2つのステップでスムーズに連携のプロセスを解説！

STEP 1 連携候補企業の探索・選定

研究支援者が、研究者とともに研究シーズが解決したい技術課題を言語化。

特許情報から研究シーズが解決する課題を起点に連携候補企業を探索。

特許情報・その他の公開情報を分析し、連携候補企業を選定。

STEP 2 連携候補企業への提案

連携候補企業にアプローチを行い、企業側の関心を引き出し、アポイントを調整。

企業連携による価値創造ストーリーを構築し、連携提案資料を作成。

連携提案のためのプレゼンテーションを実施し、企業と意見交換。



Q&A よくある質問

- Q** どんな分野の研究成果でも利用できますか？
幅広い分野に対応できますが、特に産業応用が期待される技術を持つ研究にとって有用です。
- Q** 特許情報を使うと、企業の探索・選定がしやすいのはなぜですか？
特許情報は、企業の技術戦略や研究開発のニーズや課題を客観的に把握できる情報が満載だからです。
- Q** 付属の「連携提案資料」の特徴は何ですか？
企業視点でのビジネスモデルとその提供価値がカバーされており、具体的で魅力的な提案を実現できる点です。

入手先

以下のWEBサイトからダウンロードしてください。



INPIT
(独立行政法人
工業所有権情報・研修館)
知財戦略部 イノベーション・企画担当
ip-sr05@inpit.go.jp